

がん社会 を診る

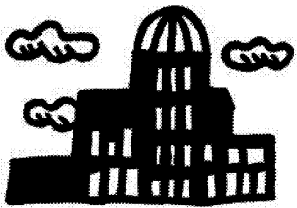
中川 恵一

原爆投下から70年になりま
すが、広島・長崎の被爆の正
確な日時を知らない人が、全
国で約7割に上ります。広島
市、長崎市でも3〜5割に達
するなど、原爆の記憶が風化
しつつあります。

がんにまつわる迷信が多い
のと同様、放射線被ばくに関
する誤解もたくさんありま
す。原爆についても、ケロイ
ドややけどが放射線によるも
のと思っている方が少なくあ
りません。

しかし、原爆による死亡の
ほとんどが、爆発直後の爆風
と熱線によるものです。爆心
地の温度はセ氏3000度以
上にも達しました。多数の人
が、全身のやけどで命を落と
しました。

4密(4000ミリシー)の放
射線を全身に一瞬で浴びた場
合、約半数の人が死にます。
こつした大量の被ばくでも、
皮膚の温度は1000分の1



イラスト・中村 久美

原爆の悲惨さ語り継ぐ

度程度しか上がりません。や
けどと放射線は関係がありま
せん。

原爆で亡くなった人は、投
下された年だけで広島で約14
万人、長崎で約7万人とされ
ます。両市で放射線被ばくが
原因となってがんを発症した
のは2000人程度と推計さ
れていますが、被ばくの人体
影響については未解明の点も
多いのが現状です。

原爆による放射線被ばくの
ほとんどは、爆発直後の一瞬
の「初期放射線」(ガンマ線
と中性子線)によるものでし
た。また、数日でほぼ消失し
ましたが、降下した放射性物
質などによる「残留放射線」
も存在しました。

この残留放射線の存在が、
原爆投下後に救援や医療活
動、親族捜しなどのために市
内に入った「入市者」にも被
爆者手帳を交付してきた理由
です。手帳交付は1980年
に最大の約37万人に上りまし
た。

入市被爆者の寿命は、全国
の平均寿命より長い傾向にあ
ることが分かっています。広
島市は、平均寿命が政令指定
都市の中でもトップクラス
で、死産も少ない健康都市と
して知られています。原爆投
下後に強いストレスなどを伴
う「避難」が実施されなかつ
たこと、手厚い医療が提供さ
れたことなどがその理由だと
考えられます。

私たち日本人は、原爆の悲
惨さとそこから復興の姿を
後世に語り継いでいく責務が
あると思います。

(東京大学病院准教授)